

2010年度

科目名	薬理学B				
担当教員	小山 豊、綿野 智一				
配当	薬科3			コード	33051
開期	前期	講時	水曜日3限	単位数	2
授業テーマ	【必修】 内分泌系、消化器系、血液系および代謝系に作用する薬物				
目的と概要	2年次前期の「基礎薬理学」では、体内に入った薬物の運命とその作用発現までの機構について、薬物一般に共通する性質を総論しました。薬理系科目では以降、個々の薬物の性質について学習して行きます。3年次前期に開講する「薬理学B」では、「内分泌系、消化器系、血液系、代謝系に作用する薬物の作用点、薬理作用、臨床応用などに関する基本的な知識を習得する」ことを、学習の一般目標とします。 (日本薬学会モデルコアカリキュラム C13(2)「薬の効き方II」およびA(2)「医療の担い手としてのこころ構え」に一部に対応)				
成績評価法	期末時に行う試験(97点)および平常点(3点)の100点満点で、評価します。				
テキスト	薬理学—医薬品の作用—/竹内幸一、福井裕行、栗原順一 編/廣川書店				
参考書	スタンダード薬学シリーズ6 「薬と疾病I」/日本薬学会 編/東京化学同人 New薬理学/田中千賀子、加藤隆一 編/南江堂				
履修に当たっての注意・助言	授業3回ごとに小テストを行い、各受講生の目標への到達度をフィードバックして行きます。				
講義計画					
回数	授業形態	授業内容	到達目標(SBO)	コア対応番号	学習領域
1	講義	ホルモン関連薬1	1.医薬品の使用に関する事故回避における、薬剤師の重要性を認識する。 2.ホルモンの分泌異常に用いられる代表的治療薬の薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。	A(2) C13(2)	態度 知識
2	講義	ホルモン関連薬2	1.代表的な糖質コルチコイド代用薬の薬理作用、機序、臨床応用および主な副作用について説明できる。 2.代表的な性ホルモン代用薬および拮抗薬の薬理作用、機序、臨床応用および主な副作用について説明できる。	C13(2) C13(2)	知識 知識
3	講義	消化器疾患治療薬1	1.代表的な胃・十二指腸潰瘍治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	C13(2)	知識
4	講義	消化器疾患治療薬2	1.その他の消化性疾患に対する代表的治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。 2.代表的な催吐薬と制吐薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。	C13(2) C13(2)	知識 知識
5	講義	消化器疾患治療薬3	1.代表的な肝臓疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる 2.代表的な膵臓疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	C13(2) C13(2)	知識 知識
6	講義	利尿薬	1.利尿薬を作用機序別に分類し、臨床応用および主な副作用について説明できる。	C13(2)	知識
7	講義	血液系作用薬	1.代表的な止血薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。 2.代表的な抗血栓薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。 3.代表的な造血薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。	C13(2) C13(2) C13(2)	知識 知識 知識
8	講義	糖尿病治療薬	1.代表的な糖尿病治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。	C13(2)	知識
9	講義	代謝疾患治療薬1	1.代表的な高脂血症治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。	C13(2)	知識
10	講義	代謝疾患治療薬2	1.代表的な高尿酸血症・痛風治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。	C13(2)	知識
11	講義	代謝疾患治療薬3	1.カルシウム代謝調節・骨代謝に関連する代表的な治療薬をあげ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	C13(2)	知識
12	講義	炎症性疾患治療薬1	1.代表的な炎症治療薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。	C13(2)	知識

13	講義	炎症性疾患治療薬2	2.慢性関節リウマチの代表的な治療薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。	C13(2)	知識
14	講義	アレルギー疾患治療薬	1.アレルギーの代表的な治療薬を挙げ、作用機序、臨床応用、および主な副作用について説明できる。	C13(2)	知識
15	講義	まとめ			
授業方法					
一般 目標	学習方法	場所	教員数 (補助者数)	教科書以外の教材など	時間(分)
A(2) C13(2)	講義	講義室	1(0)	配布資料(プリント、電子テキスト)	90分 x 15